

優秀賞

みんなが幸せに

暮らせる社会に

八尾市立高安中学校 三年 松田^{まつだ}千穂^{ちほり}里

「ホットドッグおいしそ。」

学校の昼食の時、友だちに言われました。

「ありがとう。お父さんが作ってくれてん。」
と、私が言うと、

「え、すごいな。」

と、言われました。しかし、私にとっては毎週金曜日にお父さんがお弁当を作ってくれるのは日常のことです。お父さんは他にも、朝ご飯を作ってくれたり、洗濯物を干したり、食器洗いなど家事はなんでもしています。お母さんは、毎日お父さんと同じような仕事をしています。朝早くから夜遅くまで働いているので、お父さんはお母さんと一緒に家事をすることは当たり前だと思っしてしているそうです。しかし、お父さんが家事をすることを話すと、

「お父さん、すごいね。」

「いい旦那さんやね。」

などと、言われますが、お母さんが家事をしても、

「お母さん、すごいね。」

「いい奥さんやね。」

とは、言われません。逆に外で夜遅くまで働いていることを、

「お母さん、えらいね。」

と、言われます。

毎週日曜日に放送されている人気アニメ「サザエさん」を家族で楽しく見えています。しかし、よく見てみると男女差別があるように思えます。例えば、お父さん（波平）が帰ってくる場面があります。すると、お母さん、サザエさんなど家族で出迎えします。そして、お母さんがお父さんの鞆を受け取り、部屋について行き、上着とネクタイをかけるということをしています。出迎えるなら、誰が帰って来ても出迎えばいいと思うし、自分のことは自分でしたらいいのと思います。男女平等と言われていますが、まだ日本では平等ではないことがあるのではないかと思います。

調べてみると、厚生労働省がまとめた全国の既婚女性約六五〇〇人への調査によりますと、育児全体を見た時に、夫が分担している割合は二〇・二パーセントで、妻は七九・八パーセントでした。また、家事については夫が一四・九パーセント、妻が八五・一パーセントで、いずれも一九九三年の調査開始以来、夫の割合が最も高くなりました。ただ、妻が家事をする時間は一日平均四時間四〇分と、十年前から横ばいで、厚生労働省は「国際的にみれば、夫の家事・育児参加の時間はまだ短い」とみています。

さらに、育児を取る男性について調べてみました。安倍晋三首相は『「女性が働き続けられる社会」を目指す』と成長戦略で打ち出しました。出産後も女性が働き続けやすい社会をつくりたいといいますが、そのためは、男性の育児参加も重要と言いますが、二〇一二年度、男性の育児休業取得率は急激に低下しています。これでは「働き続けやすい社会」の実現は難しいです。現場では、育児休業をとる男性へのハラスメントも少なくないそうです。これらのことから、私は、男性の家事・育児をする割合が増えていくのはいいことだと思いますが、家事・育児をす

る時間がもっと増えればいいなと思います。そして、男性が育児を取るのを増やすには、職場の環境や雰囲気をよくすることが大切だと思います。

次に職業について考えたいと思います。看護師や保育士は女性の職業、消防士やパイロットは男性の職業と思う人が多いと思います。実際、女性消防士の割合は二・四パーセントと低く、男性看護師の割合は五パーセント程度だそうです。他にも、男性の仕事、女性の仕事と思われる職業があると思います。

世界に目を向けてみると、男女平等ランキング一位はアイスランドで日本は一〇四位：私が思っていたよりかなり低くがっかりしました。アイスランドでは、基本的に出産費用、健診料のほぼすべてが税金にて賄われます。そして育児休暇は通常九か月。初めの三か月は父親、母親の両方が、そしてその後の六か月からは、両親のどちらかが産休を選択できます。会社によっては一年間取ることができます。女性が育児のシステムを利用しても、決して女性のキャリアは損なわれず、女性が仕事に復帰したときに、会社で同じポストが約束されているそうです。

私は将来仕事をしたいと思っています。結婚して子どもが生まれても、仕事を続けたいと思っています。そのためには、女性は働きやすく、男性は家事や育児に参加できるような世の中になってほしいと思います。そして、男女関係なく、一人の人として生きていける社会になってほしいと思います。そのため私ができることは何かを考えて、頑張りたいと思います。